

ドキュメンタリー＋フィクション映画

The Postman From Nagasaki (仮題)

プロダクションノート

2018年10月20日

ピーター・タウンゼントが書いた「長崎の郵便配達」という書籍があります。この本は1984年にイギリス、フランス、日本でも続けて出版されましたが絶版となっていました。内容は第2次世界大戦時に長崎で原爆被害にあった少年の生き様を描いたドキュメント小説です。著作者のピーター・タウンゼントは元英国空軍大佐という経歴の持ち主で、マーガレット王女と大恋愛の末、英国ロイヤルファミリーの反対にて決別。このロマンスは大ニュースとなって世界に伝わりました。その後英国を出国。その後のピーターの活動はあまり知られていません。

英国を出た彼は車一台で世界旅行を実行します。この旅の体験レポートを英国の新聞社へ送りジャーナリストとして活動が始まります。こうして各国を巡り人々や文化に触れた経験は、戦争被害にあった子供達の物語を執筆するきっかけとなり「長崎の郵便配達」に繋がります。

この映画はピーターが1982年に取材し歩いた長崎を、娘のイザベル・タウンゼントが旅をします。彼女にとって初めてのアジア・日本・長崎です。そして本モデルである谷口稜暉さんが居た場所です。谷口さんが生き抜いた事実、父が取材で歩いた道を歩き、長崎の人々と出会い、父が人生をかけてフォーカスしていったテーマを体感していきます。

そして彼女はフランスに戻り自分の暮らしに戻ります。

その後、彼女は…

これまでの撮影を振り返って

主演のイザベル・タウンゼントは、着飾らず素顔のままこの映画に向き合ってくれています。彼女は自然を愛するという父の影響を受けて育ち、若かりしモデル時代より一段と成長し、今では自分も家族をもつ世代になりました。人として尊いものを捉え、消費社会だけでは消え去ってしまう大切なもの、それを次世代の子供たちに伝えたいと考えています。本作にて彼女は父の書いた本を追って長崎に向かいました。その姿は誇り高き父の意思を全身で受け止め、自分なりの言葉や行動を探しているかのようでした。

映画のメッセージ

誰もが家族を大切に思う愛や、国籍・文化・宗教を超えた友情という誰もが持ち得る普遍なものがテーマです。本作では娘が父の思いを紡ぎ進んでいきます。映画をみる私たちも同じく、本のモデルとなった少年の歩んだ道のりを歩み、彼女の父と少年が生涯をかけた想いを体感していく事でしょう。現代に生きる彼女は未来ある子供たちが安心して次の時代へ進めるように願います。それは世界万人の共通の思いだという事が捉えられたらと思います。次は今を生きる私たちが、そのメッセージ(手紙)を次世代に配達する番です。

川瀬美香